



## 2013年・夏季号・No.19

世界のサッカー潮流が変化するー欧州CL観戦記	盛田 常夫	1
ハンガリーの思い出	坂梨 正典	2
サイクリング報告	本田 雅英	4
ソウルからの便り	天野 明	6
留学生自己紹介	遠藤 綾女・打保 早紀・森山 広太郎・小森 夕理	8
4カ国対抗親善ゴルフ大会4年ぶりの優勝に向かって	柿崎 広好	12
ゴルフの魅力	飯尾 欽哉	13
緑の丘日本語補習校	杉井 夕起・ラバイ まりな・中野 ジェイミー	14
	桑名 真生・越野 花・隅田 理愛・畑山 未来	
ブダペスト日本人学校	内山 翠・中野 絵理香	16

## 世界のサッカー潮流が変化するー欧州 C L 観戦記

盛田 常夫

今年、欧州クラブ選手権は堪能できた。準決勝の組合せがリーガ・エスパニョーラとブンデスリーグの上位2チームの対決で、リーグのレベルを推し量る上でもたいへん興味深かった。ブンデスリーグの覇者バイエルン・ミュンヘンと昨季まで香川が属していたドルトムントが、それぞれ当季最高のストライカーであるメッシとロナウドを擁するバルセロナとレアル・マドリードを倒して決勝に進んだのだから、ドイツのファンにはこれ以上望むべくもない組合せになった。

香川が移籍したマンチェスター・ユナイテッドは決勝トーナメント1回戦でレアル・マドリードに負けてしまい、香川はアウェイのゲームに前半だけ出場して、後は出番がなかった。ホームでのレアル戦直前のプレミアリーグでハットトリックを記録し、誰もがレアル戦は先発と思っていた。激しい体力戦に向いていないと判断されたのだろう。チームの攻撃に変化を付けるために香川を入れたはずなのに、香川が加わった時の攻撃オプションに、チームがまだ慣れていないということだろうか。ドルトムントに残っていれば、欧州 C L の舞台で存分に活躍できはずだから、なんとも巡りあわせが悪い。

バイエルン・ミュンヘンがバルサを合計得点7-0の大差で一蹴したゲームは、オリンピックで惨敗したスペイン代表の戦い方とダブって見えた。バルサに代表されるパスサッカーが、バイエルン・ミュンヘンのスピードのある圧倒的な攻撃力の前に粉砕されたからである。長らく世界のサッカー界に君臨するスペインは、華麗なパスワークで相手を翻弄しゲームを支配してきた。ところが、縦の突進力のある攻撃を展開されると、ディフェンスが受け身になり、球を後ろで回しているだけになる。ボール支配率は高くても、脅威を感じさせない。バイエルンは左にフランス代表リベリ、右にオランダ代表ロッベン、ワントップにクロアチア代表マンジュキッチ(ドイツ代表ゴメス)、そしてワントップにミューラーを据える超攻撃的布陣だ。守備的MFもSB、ゴールキー

パーもドイツ代表を揃えるチームだから、まさに鬼に金棒。これだけの突進力で責められると、パスサッカーが蹴散らされるといふことか。

ドルトムントはまったく違ったカラーのチーム。香川が去った後も、親しみのあるドルトムントのゲームを良く見ている。このチームの特徴は90分間休みなく走り続ける若さだ。とにかく、20代前半の若い選手(ほとんどが各国代表選手)が、労を惜しむことなく走る。香川と組んでいたワントップのレヴァンドフスキー(ポーランド代表)はレアルとのホーム戦で何と4点をもぎ取った。香川の後を引き継いだワントップに「ドイツの至宝」と呼ばれるグウツェが、右にポーランド代表ブワシチコフスキー、左に一昨年のリーグMVPのロイス、右SBにやはりポーランド代表のピシチェク、左SBにドイツ代表シュメルツァー、CBがセルビアのスボティッチとドルトムント生え抜きのフンメルスという若い布陣だ。ポーランドとドイツの若手選手からなるチームだ。この若い力は最後まで諦めを知らない。準々決勝のマラガ戦では90分間が過ぎ、2点を取らなければ敗退という絶体絶命のロスタイム4分間に、何と2点を入れて逆転してしまった。線審がオフサイドを見逃したほどの怒涛の攻撃だった。

ドルトムントを率いる青年監督ユルゲン・クロップは長身で厳(いかめ)しいひげ面ながら、選手をととても可愛がる。昨季、優勝を決定づけるゴールが決まると、グラウンドに躍り出て、小さな香川を抱き上げた。移籍が決った香川を抱きしめて涙を流し、マンチェスターで左MFに追いやられている香川を悲しいと吐露するクロップは、人情に溢れている。だから選手に兄貴のように愛される。レアルを去ったモウリーニョとまったく対照的だ。

そのクロップが苦しい立場に置かれている。生え抜きのグウツェがライバルに引き抜かれたからだ。新しくバイエルン監督に就任するグラディオラ(前バルサ監督)の要請で、バイエルンが3700万ユーロの巨

額違約金を払って引き抜いた。もちろん、本人の同意があるから、クラブ側は止めようがない。しかし、C L 決勝直前の移籍発表はとてふフェアとは言えない。ドルトムントが急いで香川の引き戻しをマンチェスター・ユナイテッドに打診したようだが、移籍してまだ1年も経たないから交渉にならない。追い打ちをかけるように、レヴァンドフスキーのプレミアリーグ移籍が話題になっている。昨季、プレミア得点王のファンペルシーをマンチェスターに引き抜かれたアーセナルが、レヴァンドフスキーに白羽の矢を立てたからだ。C L 決勝にまで進んだドルトムントだが、まだ若い選手にはプレミアリーグで活躍したいという夢がある。飛車角が移籍するドルトムントは当然、代わりの選手を探さざるを得ない。もし香川が来季もマンチェスターで冷遇されるなら、ドルト復帰が実現するかもしれない。ドイツ・リーグのレベルの高さが証明されたのだから、もうプレミア志向など捨てても良いではないか。それに、ドイツ・リーグの財政的基盤は盤石なのだから。

翻(ひるがえ)って、コンフェデレーション杯3連敗の日本の評価は難しい。なによりも不可解なのは、ザック監督とサッカー協会のコンフェデレーション杯の位置付けである。ブラジルが2週間の合宿を張って第一戦の日本戦を迎えたのにたいし、日本は消化試合となったイラク戦に主力の半数以上を出場させ、オーストラリア戦からイラク戦を経て、中3日でブラジル戦に挑んだ。日本からブラジルは地球半周である。これで準備万全のブラジルと戦えるわけがない。事実、選手の動きは鈍く、ほとんど見るべきところはなかった。移動の疲労が少しは取れた対イタリア戦での互角の戦いを観ると、やはりコンディションの調整なしに良いゲームはできないことが分かる。チームのレベル、戦術や選手起用を議論する以前の問題である。こういう議論がないのはどうということだろうか。

(もりた・つねお 「ドナウの四季」編集長)

## 温熱治療のパラダイムを転換する

温熱治療を根本から見直し、  
あるべき手法を示した著書。

曖昧な日常知を科学によって解明した画期的な著作。

オンコサーミア治療器は世界25カ国で利用。  
ドイツでは百か所以上のクリニックで、  
韓国の主要な大学病院に設置。

好評発売中。定価3200円+税。  
大手書店、Amazonにて購入可。

- 第1章 ハイパーサーミアの歴史と評価
  - 1.1 ハイパーサーミアとは何か
  - 1.2 ハイパーサーミアの曖昧さと課題
  - 1.3 ハイパーサーミアの歴史的概観
  - 1.4 腫瘍治療のハイパーサーミア
- 第2章 ハイパーサーミアの物理学
  - 2.1 電磁気学の基礎概念
    - (1) 電磁気現象
    - (2) 電場と磁場
    - (3) キャパシタ
    - (4) 位相シフト
    - (5) インピーダンス
    - (6) 電磁波
  - 2.2 バイオ電磁気学
    - (1) 電磁波スペクトル
    - (2) バイオインピーダンス
  - 2.3 「非熱」効果
    - (1) 非温度依存(NTD)効果
    - (2) 電磁場におけるNTD効果
    - (3) 電磁気による目標選択
    - (4) 電磁気と生体システム
- 第3章 ハイパーサーミアの生理学
  - 3.1 生体におけるエネルギー、熱、温度
  - 3.2 生体における温度制御
  - 3.3 生体の加熱と体温
  - 3.4 加熱による温度の分布
  - 3.5 全身加熱と局所加熱の本質的な差異
  - 3.6 加熱と冷却:リスクとその回避
  - 3.7 温度測定と熱積算量(ドーズ)

Heat Therapy in Oncology—Oncothermia  
New Paradigm in Hyperthermia  
Andras Szasz and Tsuneo Morita

腫瘍温熱療法—オンコサーミア  
ハイパーサーミアのパラダイム転換— 医術から医学へ  
サース・アンドラーシュ / 盛田常夫 [著]



日本評論社

- 第4章 腫瘍温熱療法
  - 4.1 腫瘍温熱治療の基本概念
  - 4.2 ハイパーサーミアの手法
  - 4.3 熱の作用と併用効果
    - (1) 熱と血流
    - (2) ハイパーサーミアの併用効果
  - 4.4 ハイパーサーミアの熱生成
    - (1) アンテナ放射
    - (2) 磁場(コイル)
    - (3) 容量性カップリング
    - (4) 伝導加熱
  - 4.5 ハイパーサーミア治療が抱える問題
- 第5章 オンコサーミアの理論と方法
  - 5.1 電場の利用
  - 5.2 細胞燃焼
  - 5.3 腫瘍治療における細胞加熱
  - 5.4 ミクロスコピック加熱
  - 5.5 集束化の原理
  - 5.6 温度の役割
  - 5.7 安全性
  - 5.8 積算量(ドーズ)
  - 5.9 臨床事例
- 第6章 自然療法としてのオンコサーミア
  - 6.1 ホメオスタシスの復位
  - 6.2 細胞の自然死の促進
  - 6.3 細胞転移の阻止
  - 6.4 転移がん細胞に作用



## ハンガリーの思い出

2013年3月末6年間のブダペスト駐在生活を終え帰国、東京生活を始めて早3ヶ月が経ちました。忘れないうちにハンガリーの思い出を徒然なるままにしたためたいと思います。

2007年3月の赴任前研修で、弊社人事部長が「是非駐在国を好きになって欲しい」と言っておりましたが、結果的に家族一同大好きとなり、仕事にもより一層力が入りました。たまにはうちの人事も良いことを言うなぁと感心した次第です。

### ハンガリーとハンガリー人

正直言えば、ブダペストとブカレストの違いが分からないぐらい中東欧に馴染みがなく、未知の国でした。初めてドナウ川と王宮を見ても不思議と感動がなく(後になって考えると雄大過ぎてピント来ない、その昔グランドキャニオンを見たときの感覚だったのでと遡及分析)平然としていたのですが、時が経つに連れ、なんと素晴らしい風景なのだろうとじわじわ心に染み込む日々でした。

4月1日に赴任し、まわりが春だ、春だと大喜びしているのを不思議に思っていました、寒くて暗く長い冬を一度経験すれば、その気持ちに大いに賛同することになります。新緑が正に目に沁みるのが良く分かりました。

その昔、ウラル山脈から大移動してこの地に定住したマジャル人(ハンガリー人)には、どこか親しみを感じます。ルーツがアジアだからなのかもしれませんが、保守的で真面目な人が多く、会議もジョークや天気の話もなくいきなり本題に入ります。公私に亘り多くのハンガリー人と知り合うことができましたが、嫌な思いをしたことは記

憶がなく、これからもお付き合いを続けたいと願う人ばかりでした。

### 対日感情とハンガリー語

日本に対する印象は非常に良いと思われれます。その訳を愚考するに、① DNAのどっかにアジアの影響が、② 第二次大戦で同じ枢軸国側、③ ソニーやパナソニックと言った先進技術の印象、④ 寿司やアニメ、



漫画といった文化的興味あたりが大きく寄与しているかと思います。

ハンガリー語は特殊言語で最も難解な言語の一つと言われていますが、個人的にはドイツ語やフランス語も十分難しいと思います。確かに、独特な単語でその意味を推測することは全く不可能ですが、文法的には比較的すっきりしているとの印象です。簡単な日常会話は少し出来るようになりましたが、日本へ帰国後一切使う機会がないのは寂しい限りです。業務上、片言でもお決まりの挨拶をハンガリー語で行うこ

## 坂梨 正典

との効果は絶大であり、個人的には都度相手のリアクションを見て楽しんでいました。客先の心の扉をちょっと開けることでその後の打合せが極めて友好的な雰囲気で見えます。弊社人事部もその辺りを示唆していたものと思われれます。

### 食事とお酒

家族一同食事は大変美味しいとの共通認識です。グヤーシュスープはシンプルながらこくと旨みが抜群で、フォアグラソテーは常識を覆すものでした。弊社オフィスそばのイタリア料理店(だと思われれますが店名はコム・シュ・ソワとフランス風、パスタは日本人好みの味付けと麺の腰、家族経営のアウトホームなお店です)で味わうフォアグラ(熱々のフライパン内で秘伝のソースに浸っている!)は麻薬的な美味しさで、半年食べないと禁断症状?が確認されます。それを食べた客先や弊社出張者は再度のブダペスト出張を強いられることとなり、「駐在員の罫」或いは「最終兵器」と呼ばれていました。その他トルトゥットカーポスタ(ロールキャベツ)、パプリカチキン(ハンガリーではパプリカは最重要食材・調味料)も美味でした。

お菓子は家内絶賛で、ショムロイガルシカ(見かけは大盛だがあつと言う間に完食)、ラーンゴシュ(油で揚げたパン生地にガーリック、サワークリーム、チーズをこんもりのせた極めて健康に良い?一品)、最近東京青山に店を出したらしいジェルボーのケーキ等がお薦め、息子たちはクルトゥーシュ・カラーチ(トンネルパン?)が大好物でした。

ハンガリーは隠れたワインの名産地で、ヴィラーニ、セクスード、エゲル地方他に多くの素晴らしいワイナリーが存在します。輸

出用に大量に作らない為か、残念ながら日本では余り知られていません。我が家ではゲレ、ボック、ヴィリアン等ヴィラーニワインを良く飲んでいました。帰国に際しゲレの赤ワインを大人買いしたのは当然の成り行きです(お陰で現在我が家のリビングにどんと居座るワインセラーまで買ってもらうことに。。。)。また、パーリンカ(果物を原料とする蒸留酒)は強烈ですがそのフルーティな味わいに何度も文字通り!酔わされました(悲劇的悪夢も経験)。

### 音楽

音楽は我が家に大きな変化をもたらしました。赴任以前クラシックは殆ど聴かず、興味もありませんでしたが、何度も生のオーケストラを聴いているうちに、その迫力、響きの心地良さを体全体で感じるようになり、私も家内もカーオーディオはいつもクラシックになる程大好きになりました。長男は学校のバンドクラスが必修で渋々トランペットを始めましたが、続けるうちにそれなりに演奏できるようになり、次男はクラリネットを始め大好きになり、バイオリンまでやり始めました。私も長年の夢(?)だったテノールサクソフォン

をやり始め、家族からの騒音・雑音とのご批判にも挫けず、クラシック、ジャズ、アドリブに挑戦しました。ハンガリーに行かなければできなかった貴重な経験であり、一生の財産かと思っています。

### 野球とゴルフ

少年野球をやっていた長男は、ハンガリー生活で野球をやれないことを嘆いていましたが、何とハンガリー野球連盟が存在し、少年・成年の部でリーグ戦をやっていることを発見し大変驚きました。長男はセントンドレ市をホームとするスリープウォーカーズに参加することができました。少年の部では当時他の日本人も4~5人参加

し、毎週末他チームと対戦、勝ったり負けたりでしたが楽しい思い出となりました。長男の成長に伴い、成年の部のチームにもお世話になりました。レギュラーには当然なれませんでした。時々試合に出して貰い、これまた貴重な経験でした。暖かく迎えてくれたGMのシモニーさんそしてチームメートの皆様には感謝感謝です。

ゴルフでは日本人ゴルフ部に参加させて頂き、毎月の定例コンペ、春秋のマッチプレーで楽しくプレーをすることができました。月一ゴルファーながら基本にこだわり、フォーム矯正に時間を掛け「魅せるゴルフ」(誰も見ていませんが)を追求しました。成績はと言うと浮き沈みが激しく(大半は水面下)パツとしませんでしたが、ごく稀



に調子が良く定例会で3回、神懸的にマツプレーで1回優勝できたのが貴重な思い出です。また、超高級和食料理店「大吉」で開催される新年会や忘年会、そこから流れて某クラブTにおける部員の皆様との楽しい語らいと歌声交換は今も懐かしく思い出されます。世の中にこれほど欲求不満がたまるスポーツがあるかと思えるほど不思議な競技ですが、その分奥も深く仲間と共有できる話題が尽きない楽しい趣味だと思います。

### ビジネス

出張所と言う性格上、出身部隊である情報関連のみならず化学品、鉄鋼製品、物資

等のコモディティービジネス、更には環境関連、上下水道、発電所、石油化学プロジェクト等幅広い分野(その多くが未知の世界)を手掛けることとなり、様々な苦労はありましたが大変有意義な時間を過ごす事が出来ました。日系進出工場の中で技術サービスを提供させて頂いたことや省エネ設備を導入頂いたことも貴重な経験でした。

また、日本国内では滅多に出来ない日本大使館・ジェットロの皆様や同業他社との交流を経験し、更には日本を代表する製造業の方々とは知り合う機会にも恵まれましたが、これまた目に見えない財産かと思っています。2008年のリーマンショックに続く欧州景気後退の影響もあり、業績面では困難な時期でしたが、ハンガリー経済の今後の力強い回復を祈るばかりです。

### 商工会・日本人会

2007年赴任とともにいきなり商工会の副幹事となりあたふたしました。然しながら、商工会メンバーである日系進出企業のトップの方達と親しくなり、また商工会をより良くするお手伝いが少しでも出来たとしたら大きな意義があったと思います。勢いあまって日本人会の会長も引き受け、何とか魅力ある

会にしたいと尽力しましたが、力及ばず結果的に解散させてしまい忸怩たる思いも残ってしまいました。商工会会員、事務局、歴代幹事、ジェットロ、大使館の皆様、そしてご意見番(天敵?)盛田様には大変お世話になり改めて御礼を申し上げます。

花粉症の季節を乗り切り、満員電車も大分慣れ、梅雨真っ只中ではありますが、ついこの前までハンガリーに居たことが夢のようです。近いうちに是非とも「ドナウの真珠」ブダペストを再訪したいと考えています。

(さかなし・まさのり 丸紅)



## サイクリング報告

本田 雅英

### 自転車乗りの環境

ブダペスト滞在時に楽しんだサイクリングについては、本誌2011年春季号に掲載していただいたが、2011年3月末に東京に戻ってきてからもサイクリングは続けている。ブダペストに日本から持ち込んだロードレーサーを船便で送り返し、週末に早起きする気力が残っていれば、多摩川沿いを50キロ以上走ってくる。多摩川への途中、交通量の多い甲州街道を走らねばならず、時折、いらいらしているドライバーに幅寄せされるなど怖い思いもすること

もある(このような経験は欧州ではまずない)。帰国して感じたことは、子供連れ運転の可能なママチャリの電動アシスト化が進んだこと、またロードレーサーやクロスバイクなど異なるタイプの自転車をカラフルな服装で乗りこなす男女が増えたことだ。市民の自転車への関心は着実に高まってきており、これまでのジロ・デ・イタリアやツール・ド・フランスなどの自転車レースやハードウェアとして最新の自転車を紹介するような趣味性の高い専門雑誌に加え、自転

車ファッションや自転車で立ち寄れるカフェ、東京のような都市部の狭い住宅環境で自転車と暮らすアイデアを紹介するなど、日々のライフスタイルに自転車を上手に取り込むための情報発信を売り物にする雑誌類が書店で目に並ぶようになった。さらに、交通安全の面でも、自転車保険にコンビニで加入できるようになり、また自転車専用道路の導入が検討されるなど、歩行者と同類で語られてきた自転車を車両としてとらえる空気が徐々にではあるが生まれてきている。まだまだ紆余曲折はあると思うが、逆走や歩道での暴走のない「大人の」自転車社会の早期実現に期待したい。

### 自転車のものづくり

ものづくりの面では、東京サイクルデザイン専門学校という、国内では初めて自転車作りを学ぶ専門学校が2012年に都心・渋谷に開校した。

現在ロードレーサーのフレーム材質の主流は、製造技術の進歩により、長らく主役の座にあった鉄から、アルミやより軽量のカーボンに移行している。その世界的な流れに乗ることのできたメーカーは、資本や技術を持つイタリアや米国、さらに中国市場で成功し、欧米ブランドのOEM生産を経て急速に成長した台湾のブランドだ。ママチャリなど主に国内市場向け自転車を製造してきた日本の自転車業界は、安い製品が中国などから輸入されるようになった結果、残念ながら「ひん死状態」と言われている(台湾ブランドの成功と日本業界の状況については、『銀輪の巨人』(野島剛、東洋経済新報社2012年が参考になる)。

日本では、昭和の時代に鉄フレームを溶接してつなぎ合わせ自転車を自らの手で作り上げてきた自転車職人の店が、ユーザーの求める軽量の新材料の導入に対応できず、また後継者不足で次々と店を閉めてきた(私のロードレーサーの製作者も御年70を超えており、いつまでも活躍いただきたいが、後継者はおらずブランドの維持は



マイ自転車

困難だ)。国内にもわずかであるが鉄製フレームづくりで、海外から一定の評価を得ている職人の店がある。今回開校した専門学校などで学んだ若い力が製造の現場に入り込み、低迷する国内の業界に新風を吹き込み、世界に通用するブランド車を誕生させてもらいたいものだ。

### 自転車レースに参加する

国内の自転車のイベントには、富士スピードウェイなどの専用コースに使い順位を競うものや、山間部を100キロ以上サイクリングするものなど、さまざまなタイプがあり、自分の体力と相談して自由に参加できる。

私は、この6月にちょっと変わったレースに参加したので紹介する。JR京葉線の千葉・海浜幕張駅近くの海浜公園内の特設コースを12キロ走る「プロンプトン ジャパニーズ・チャンピオンシップ2013」というレースだ。プロンプトンという折りたたみ型自転車のメーカー車のみで行なわれるレースで、現代の工業製品では珍しい(?)英国製だ。私は、2年前、東日本大震災直後に東京に帰任し、いざというときの足がないと困ると思い、電車に持ち込める自転車として購入した。なお、この自転車、原産国の都ロンドンに行くとよく見かける。

このレースのユニークなのは、参加者にドレスコードがあることで、男性は、上はジ

ャケットにワイシャツとネクタイ、ズボンも7部丈などの着用が求められ、自転車レースで一般的なレーサーパンツは認められていない。また、スタートは、ルマン方式だ。この方式、フランス・ルマンで毎年行なわれる24時間自動車耐久レースのスタート方法を模したもので、運転手が横一列にスタートラインに並び、スタートの合図と共に折りたたんである自転車の元に駆けつけ、自転車を組み立てて走り出すというものだ。

は28.79キロ/時、優勝者は34.24キロ/時なので相当頑張らないと優勝は難しそう。来年は上位入賞ができるよう準備をしたいと思っている。ハンガリーに住む皆さんも練習を積んで、ロンドンで開催されるプロンプトンレースに参加してはいかがですか。たまにクレージーなことしてみるといい気分転換になりますよ。

(ほんだ・まさひで ジェトロ)

優勝者は英国で開催される本大会に招待されるので、参加者もそう多くはないし、これは優勝狙えるかも、と淡い期待を胸にレースに臨んだが、期待外れの53位(参加登録約270名)に終わった。私の平均速度

正装



エッセイ



エッセイ



## ソウルからの便り

これで最後のご奉公と思っていた青森県下北半島の勤務先から突然呼び出され、2012年12月からソウルで勤務することになりました。本誌2011年春季号に「下北からの便り」を寄稿しましたが、今回は6か月という短い期間で韓国やソウルという大都会で身近に感じたことの点描を、いくつかのトピックに絞ってお送ります。

最近「韓流ドラマ」とかK-POPで日本人に非常に近い存在になった韓国ですが、私はどちらも殆ど知らずにこちらに参りました。ソウルに到着して先ず驚いたのは、高層ビルが林立し、立派な高速道路が国中を網羅していることでした。ソウル市を南北に隔てる漢江の兩岸には市内を抜ける広いオリンピック道路が走っています。着任前に読んだ韓国人が書いた少し時代遅れの本には、韓国人のメンタリティーを表すものとして「踏まれてもついて行きますゲタの雪」(面従腹背)というのがあり、このメンタリティーには恨(ハン)という激情が裏返しにあるとありまし

た。これは12世紀に元により征服されて以来、北の中国と南の日本からの侵略を受け続けながら、生き延びてきた中で形成されたパトスと言えます。昨年、送電線建設に反対する住民が工事の強行に抗議して焼身自殺をしています。しかし、今の若い人の多くはそのようなことに無縁であり、経済状況は悪化しているが、一流国への道を模索して頑張っていると感ずります。

### 北朝鮮問題

4月中は全世界がこのニュースで持ち切りだったが、ソウル市民の表情は普段と全く変わらず、「毎度のことだけど、今回は少し違うのかな？」程度の反応が殆ど。邦人企業が情勢分析に追われ、そのうち何社かは出張自粛を実施したのとは対照的だった。嫌なことは深く考えたくないという人間本能の表れかも知れないが、それにしても外食文化が盛んなソウルの夜はいつ

もと変わらず賑わい、コンサートやフェスティバルも盛りだくさんだった。

先日、DMZ(非武装地帯)を訪問する機会があり、そこで、1950年から53年の3年間に、第二次大戦で日本に落とされた量の数倍の爆弾が半島中に落とされ、数百万人の命が失われ、全土が焦土と化したという事実を知った。さらに和解を希求し半島の非核化と民族統一に努力している多くの人を知り、心を打たれると同時に、改め



DMZ近くの海外線にはフェンスが

て韓国戦争の傷跡の深さを認識することができた。一方、ソウルでは若い人を中心に、統一に冷淡な意見を持つ人が多いことも事実。統一に伴う経済的負担に加え、離散した親戚とは60年以上も音信がなく、全く考え方の異なる人が人口の半分を占めるような社会の将来図を想像できないようだ。

世界でも稀な徴兵制度を維持しており、今のところ徴兵逃れには非常にセンシティブだが、今後ますます激しくなる経済競争の中で、20代の貴重な2年間を失うことに対して、大きな不満がある。半島問題は韓国の新しい世代に難しい選択を迫りつつあるといえる。

### 歴史問題

地方を旅行すると、ある時は仏像や農機具のように日本でも見慣れた文物に、ある時は使い方さえ見当のつかないものに出

### 天野 明

会うが、400年以上前のものはその殆どが修復・再現されたものであることに気づかされる。16世紀末の豊臣秀吉による2回にわたる侵略により、文化財は焼失し、産業は壊滅し、人々は離散し、何万人もの人が拉致され、全土が荒廃したと言われている。勿論、李氏朝鮮を支援するために派遣された明兵による略奪・破壊も日本に劣らず酷かった。そして、1853年に黒船が浦賀に来てから20年後に、日本は同じ方法で

韓国に軍艦を送り通商を要求。韓国人は日本人と政治の話が減多にしないと聞いていたが、最近の日本の政権や政治的リーダーの言動から、良く「日本は右傾化していくのか?」、「軍隊を強化するのか?」「国民は支持しているのか?」という心配げな質問を受けることが多くなった。歴史問題は時間の経過が解決を難しくするが、現代にあってもなお被害者側と加害者側では視点が異なることは避けられない。オレが殴つ

たのは3回だけで10回ではないということが加害者にとっては重要な意味を持つに対して、被害者にとってそんなことは問題ではなく、そうした加害者側の対応にイライラを募らせるのである。それはお互い立場を変えてみるができる想像力があれば直ぐにわかることである。デマゴギーに惑わされず、意見の違いを理解し、草の根の交流を深めて信頼関係を広げていくことが、まともな判断力を養ってくれると思う。

### 儒教とキリスト教

14世紀末に李氏朝鮮王朝が成立してからは、それまで治国の基であった仏教に代わり儒教が国の基本となり、上から民衆の間に徐々に浸透し、現在まで儒教道徳が主に冠婚葬祭や会食などの日常生活にも残っている。医療関係者から聞いた話だが、韓国でも肝臓移植が増えてきているが、その中で息子が親に提供するケースが随分

あるとのこと。生体拒否反応を抑えるためには肉親からの臓器提供が最適らしいが、日本では親が子供にということはあっても、親が子供からもらうという例はあまり聞かない。

女性の地位はいまだに低く、法的整備は整ってきているが、特に職場における各種差別は日本とどっこいである。今度の選挙で、女性の朴大統領が選ばれたことをもって、女性の進出と早まってはいけない。同氏はご存知16年間に亘り独裁をしいた朴元大統領の長女で、母親が暗殺された後はファーストレディーを務めた経験もあり、基本的に強い改革の姿勢は持っていない。支持層も40代以上の男性が圧倒的であり、若年層の急激な改革の声に反発したものである。

良くいわれることであるが、バスや地下鉄で高齢者が立っているところを見たことが本当に一度もない。中年者であっても荷物を持っていればほぼ必ず席を譲られる。私も少なからず席を譲られ、当初は困惑したが、これは東京以外ではどこの国でも見られる光景であり、特に儒教とは関係ない。しかし、こうした光景は、韓国でも今後スマホ族の隆盛と共に失われていく運命にあるのかもしれない。

良かれ悪しかれ儒教的習慣を崩す大勢力は、人口の30%を占めるキリスト教徒である。どんな田舎にも教会があり、社会の各層に信者がいる。私の周りにも多くの熱心なキリスト教信者がいて、接待の場において酒に手を付けられない人もいる。韓国のキリスト教は、かつての仏教のように、国が困難なとき貧しい人の間に浸透していったもので、1910年日韓併合以来、1919年の3.1独立運動の主体にもなり、更に韓国戦争後の焼け野原の中で救貧活動と共に、独裁政治にも反対し、弾圧の中で殉教者を出してきた歴史がある。現在では巨大な財力と人材を持っており、アメリカに次いで布教活動が盛んだが、アフガニスタンにまで進出し、拉致されて批判を浴びたこともある。また、一部のキリスト教会では教主が世襲するなどして私物化されているところ

はどこの宗教でも同じ。

### 日常の風景

ビジネスの場面では、会食文化が未だ残っており、午後3時以降に会議が設定されると、ほぼ間違いなく「軽く一杯」が待っている。ところが実際には軽く一杯ということが分かっているの、予め耐アルコール用ドリンク剤を飲んで準備を整えてから、十分にニンニクと辛子の利いた肉と爆弾酒の乾杯が始まる。乾杯は持ち回りなので8時前には意識が朦朧となり、翌日は午前中仕事にならないことも間々あることから、サ



49階の我が家から見た風景

ムソン等の大企業では乾杯が禁止されるようになった。一方、社員同士の会食やワークショップと称する泊りがけ社員研修及びお楽しみ旅行の費用はその他福利厚生費として税控除されるので、どこの職場でも盛んで、日本のように「オレはチョット失礼」という人を見たことがない。軍隊生活のお陰か、かなりのチームスピリットである。ソウルのホテルのロビーにいとサングラスと大きなマスクをした女性の姿をよく見かける。国内だけでなくアジアの各地から美容整形手術を受けに来る。街中で術前後を示した美容整形医の広告を見かけるが、殆ど同じような顔に出来上がっている。そういえば、人気アイドルの顔も大体同じに見える。韓国人は美的感覚についてもはっきりしていて、美容整形をするのは自分が幸せになる為だけではなく、相手に対しての気配りでもある。先日我社で新規採用者の面接をした時も、事前に送られてき

た履歴書の写真と面接にやってきた人の顔が余りにも違うので、慌てて面接室から出て秘書に名前を確認したところ、間違いのないとのこと。面接官が少しでも気分が良くなるようにとの気配りのようだ。尤も、履歴書用の写真を撮ると、写真屋が勝手に修正してしまうこともあるようで、日本のように履歴詐称だと大騒ぎすることもない。

韓国は教育熱心で、入試競争が激しいことは良く知られているが、放課後の課外活動がない。小学校からカリキュラムが終わると英語や数学の補習をするか、家に帰って塾に行くかどちらかという厳しい学生生活で、一方、運動センスのある生徒は、通常の授業が免除され、一日中運動の英才教育が与えられる。ゴルフや野球は勿論、そのうちテニスでも世界的プレーヤーが輩出されるはずだ。しかし、そうした一部の成功者の陰には途中で挫折した多くの子供がおり、彼らは勉強をしていないためその後かなり悲惨な人生を送ることになるようだ。

以上が赴任6カ月の印象だが、私はというと、日本企業は韓国での自動車運転を禁止しているため、行動範囲が大きく制限されているが、どこに行っても日本人だということ嫌な思いをしたことは一つもない。これには「韓流ブーム」以降オバさん達が文化相互交流で果たしている役割が極めて大きい。至る所でその恩恵に与り、親切で裏表のない韓国人と楽しく交流させてもらっている。ビジネスでは、走りながら考える韓国に対して、内向きの報告書作成を優先する日本とは、仕事のスピード感が全く違うことを実感している。また、若い人と接する機会が多いせい、会議において上司に反論することはまだ難しそうだが、後で「実は・・・」ということもなく、合理的なディスカッションができるのは有難い。

(あまの・あきら ユーラスエナジーコリア)



留学生自己紹介

居心地のいい場所

大阪大学外国語学部ハンガリー語専攻 遠藤 綾女

ハンガリー専攻で勉強を始めるまでブダペストが首都であることも知らなかった私ですが、なぜこんなにもハンガリーを気に入ってしまったのでしょうか。ドナウ川沿いの景色と、どこか素朴な雰囲気。雨漏りしちゃうようなバス。ぶっきらぼうな店員さんもあるけど、心の距離をすごく近くに感じることがある瞬間もある。そういうところがなんとなく好きです。

ハンガリー政府奨学金を頂いて現在10か月のプログラムで留学しています。物心ついたときからずっと海外での生活に憧れていたもので、いよいよ日本を出発する飛行機の中で「夢って叶うんや!」と思ったことを今もよく覚えています。実際に来てみると、想像以上のことが待っていました。楽しいことも大変なことも。たった10か月ではあるけれど、旅行とは違い、その土地に住むこと気付くこと、見えてくるものがたくさんあります。一歩足を踏み出してみると、どんどん世界が広がっていくんですね。思い描いていた留学生活はとっくに乗り越えていました。



国語が大の苦手な私が日本語を教える機会を頂き、すごく不安でしたが、一生懸命に勉強する姿や、彼女たちの日本語でのスピーチを聞いたときは本当にうれしくて感動しました。また留学前、大学の先生を紹介して知り合ったハンガリー人の友だちとお互いの勉強のためにスカイプで定期的に話すようになったのですが、そのちょうど1年後にようやく初めて顔を合わせることができました。写真はその時のものです。アプレツェンを案内してくれて、ハンガリー料理を教

えてもらって、ゲームをして、たくさんおしゃべりして。初めはお互いにちょっと緊張もしたけれど、本当に楽しい時間を過ごしました。日本から遠いところへ会いに行くことができる友だちがいるということへの喜びも、なんだか不思議な気持ちでした。もちろん今でもずっと連絡をとっています。留学前の会話を思い出してみると、より多くの話題について自分の気持ちや考えを話せるようになってきました。少しずつ上達出来てるかな、と実感する瞬間です。だからおしゃべりできることが本当に楽しみ。非常に貴重な経験です。

留学生活において私にとってよかったことは、日本について勉強しているハンガリー人の友だちができたことです。みんな日本

語が本当に上手で、日本のことをよく知っている。ハンガリー語を習得するためにあまりよくないようにも思いますが、日常的にハンガリー語を話せる相手があったし、日本に対して理解のある人たちが周りにいてくれるおかげで、日本から遠く離れていても不安な気持ちを和らげることができました。それに、これでもか!というくらいいつも私を助けてくれます。親切すぎて最初はびっくりしました。そして、彼らの勉強熱心な姿勢から学ぶべきことはたくさんあります。自分が

日本についてよく知らないことは多く、反省もします。また、思っていたよりも多くの日本人や、世界各国の人たちと出会いましたが、みんなとても個性的だと思いました。みんなそれぞれの理由でハンガリーにいますが、しっかりと自分を持って生きている。私がつく見習いたい部分です。

留学前にもすでに大学へ通うために一人暮らしを始め、旅行が好きなのでひとりでもあちこちしていましたが、生まれ育った土地から、家族から、友達から遠く離れて、慣れない環境で寂しさやストレスを感じることは正直たくさんあります。そのうえ冬のどんよりとした天気はさらに気分を下げていきます。それでももっともっとハンガリーにいたいと思う。それは、私の周りにいつも支えてくれる楽しい人たちができたから。離れていても日本から見守っていてくれる大切な人たちがいるから。そしてまだまだたくさんの夢があるから。留学生活も折り返し、次の目標に向けて動き出しているところです。こんなに気に入ってしまったハンガリー。大国になってほしいでもなく、世界一多くの観光客が押し寄せる国になってほしいでもなく、ハンガリーのことをもっと多くの人にもっと知ってほしい。何かの縁あ

って今ここにいるのなら、私にしかできないことがきっとあるはず。

現実にしたいた夢を心に留めておくのはもったいないです。どんなに小さなことでも行動にうつしてみる。そうすると何かが変わる。これまでの留学生活の中でたくさんの人と出会い、様々な経験をして、自分自身についても悩み、考えることができた今ひしひしと感じています。

(えんどう・あやめ)

留学生自己紹介

音から学んだこと

リスト音楽院ヴァイオリン科 打保 早紀

私が留学しようと決意したのは、2010年の岐阜・リスト音楽院マスターコースを受講したことがきっかけでした。

当時、私は日本の音楽大学に通いながらマスターコースに参加し、サバディ・ヴィルモシュ先生のレッスンを受けることができました。そして講習会で先生の演奏を聴き、プロとしての演奏の姿、表現力、音の力強さに圧倒され、先生のもとで勉強したいという憧れを持ちました。出発前、初めての海外生活が楽しみな反面、言葉も分からないので、不安な気持ちもありました。

留学生活1年目はハンガリーの生活習慣に慣れるのに必死でした。ハンガリー語の授業を受講し、留学生達との交流も深まるにつれ、徐々に街中の雰囲気に溶け込むことができました。留学中の課題は、技術の向上や表現力を鍛えるだけでなく、一流の演奏家の音を多く聴き、自身の演奏に活かすことでした。オペラやソロコンサート、オーケストラ、様々な演目を積極的に聴きに行き、時間の有効的な活用ができました。

また、休日には仲間と美味しいお酒を飲みに行ったり、レストランでご飯を食べたり、長期休暇の時にはハンガリー国外へ旅行にも行き、とても充実した日々を送ることができました。

留学中の悩みもありました。ヴァイオリ



ンを弾きながら自分の納得できる音が出せない時期が続き、一時は自分がどんな音を出したいのかさえ分からなくなってしまいました。レッスンを受けていても解決できず、周りを見ると上手い人たちばかり。自信も無くなってしまいました。そんな時、先生のコンサートを聴きに行く機会があり、曲目はチャイコフスキー作曲のヴァイオリンコンチェルトでした。魅力的なパフォーマン、ホールに響く深い音、楽しそうに演奏する表情に、私は涙が止まりませんでした。

先生の音は1つ1つが確実であり、無駄がなく、そして多彩な音色を奏でていました。先生の音楽がきっかけで、私はいろいろと考えました。楽器を持っていない時でも自然から学ぶべきことが沢山あるのではないかと、何も思わなければただ通り過ぎる景色から学ぶことがあるのではないかと、それが多彩な音が出せる要因なのではないだろうか、と。その後私は、自分の出している音と初めて本気で向き合えるようになりました。レッスンにおいても、表面の音でなく心から湧いてくる音を学ぶようになりました。

留学生活2年目は、ハンガリーの作曲家の勉強をしようと取組みました。バルトークやフバイなど、ハンガリーを代表する作曲家の作品は日本では多くは学べず、奏法も違いました。また、様々な場所で演奏する機会にも恵まれました。ハンガリー人の前で演奏するのは本当に新鮮で緊張もしましたが、とても良い経験ができたと思います。

さて、私の留学生活の集大成と言えるのが、帰国の直前に参加したフィンランドでの講習会でした。そこでもサバディ先生のもとでレッスンを受講しました。私にとっては帰国前最後のレッスンだったので、気合いを入れて臨みました。しかし、同じ講習会

編集部よりのお知らせ



「ドナウの四季」のHPが完成しました。これまで掲載されたすべての原稿を読むことができます。http://www.danube4seasons.com

皆様の原稿をお待ちしています。エッセイ、ハンガリー履歴書、自己紹介、サークル紹介などの記事をお寄せください。提出いただいた原稿は、紙面統一の編集のために修正することがあります。修正した原稿は執筆者の校正をお願いしています。

原稿は電子ファイルで、morita.magyar@gmail.comへお送りください。Word文書あるいは一太郎文書でお願いします。EXCEL形式での提出はお控えください。写真および図形は別ファイルで送付ください。



## 留学生自己紹介

に参加した女性メンバーに私は驚かされました。全員が私より年下の学生。そしてもの凄くレベルが高く、私は彼女たちの練習に対する取り組み方や演奏に刺激を受けました。私も留学していたのだからと毎日必死にレッスンを受け、練習に励みました。途中で辛くて何度もくじけそうにもなりました。しかし、彼女たちを見ていて次のように思いました。皆、他人と闘うのではなく、自分自身と闘っている。勿論、ライバル意識はそれぞれありますが、自分というものをしっかり持ち、自分のしたい音楽を奏でている、と。

先生は終始、熱心な指導をして下さり、幅広い表現力を習得できました。留學生活最後の講習会は、自分にとっての課題をクリアし、新たな課題も見つけることができました。また自分の良さも発見できました。留學前にはなかった自信をつけることができました。この自信を持ち続けられるよう、日本に帰国しても常に追求し続けたいと思います。そして刺激を与えられるような演奏家になりたいです。

親身にレッスンをしてくれた先生はもちろ

ん、辛い時も支えてくれた友達、ハンガリーで出会った多くの方々、そして私のことをいつも応援し続け、見守ってくれた両親、ハンガリーで音楽の勉強ができた環境に心から感謝したいと思います。ハンガリーは私にとって、第二の故郷です。そしてまた必ず訪れたいと思います。2年間の留學生活、ハンガリーで出会えた友達、仲間の演奏、そして先生から学んだ音、絶対に忘れません。

(うつぼ・さき)

### 留學日誌

センメルヴァイス医大4年

森山 広太郎

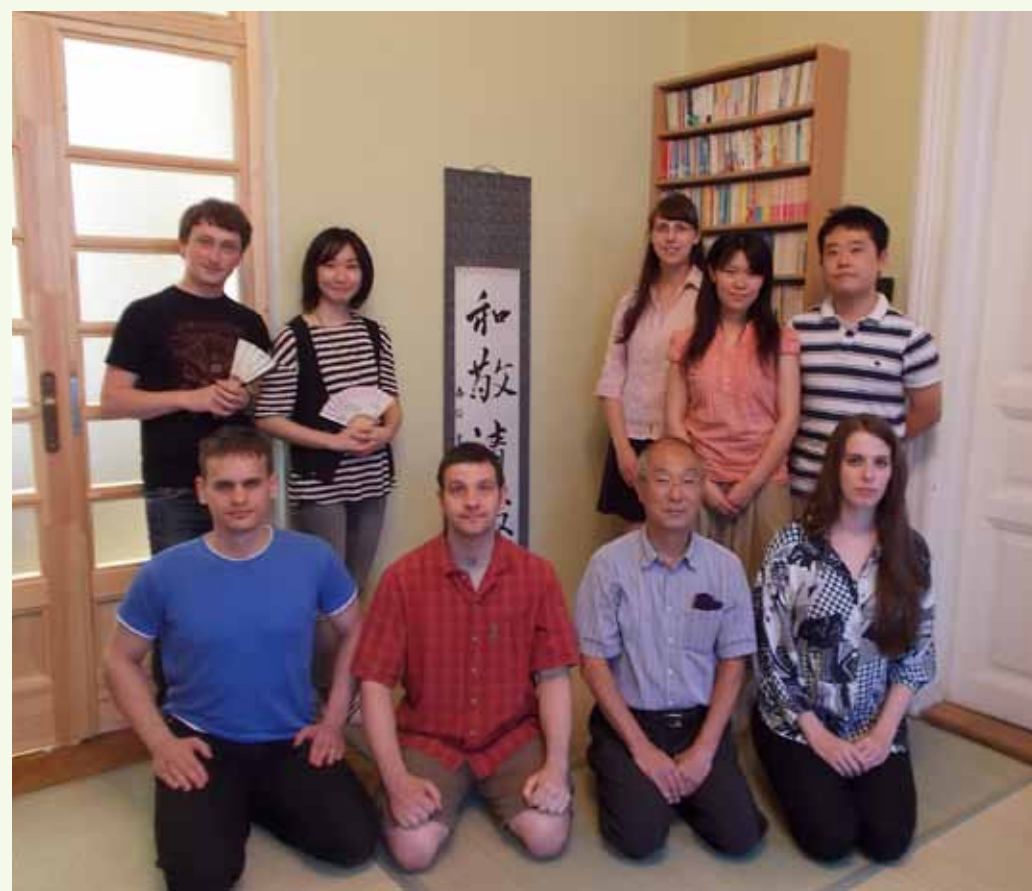
日本では梅雨の長雨が続く頃、ハンガリーではカラッと乾いたヨーロッパ独特の暑さがやってきて、そろそろ海や山が恋しい季節です

ハンガリーでの生活も5年を終えて、秋からは5回生になり、改めて自身の置かれた環境や周りの人々との巡り合わせに感謝する

毎日です。留學経験が全くなく、海外旅行すらしたことがほとんどなかった私にとって、ハンガリーで医学留學は大変リスクなものでした。医学の勉強はもちろんな簡単なものではないことは覚悟していましたが、初めての海外生活に不安はもちろんありました。それでもこの留學が自分の人生にとってかけがいのないモノになることは予感していましたが、年月を重ねてその予感が実際のものになったことに大変充実感を得ています。

ハンガリーでの生活は未だに真新しいことばかりです。この国では宗教、文化、言語、政治、教育、食事、生活習慣など様々なものが日本とは違います。日本にあるものもあればそうでないものもあり、日本のものより優れているものもあればそうでないものもあります。時には言葉の壁で周りから孤立しているように感じ、食事が口に合わないことなどから精神的にストレスを抱えてしまうかもしれません。しかしそのストレスは異文化に出会った時には誰もが乗り越えなれないといけなものであり、自身の成長を促し新たな世界に一步を踏み出すチャンスでもあるのです。日本にないものに触れた時に、ストレスとして感じるだけでなくそれを受け入れて楽しむことができるかどうかで海外生活する充実度は変わってきます。異文化という扉の鍵はいつもなんでもそれを楽しむことなのです。

また、そうした日本とは異なる環境で暮らしているハンガリーの人々と接することもまた大変意義のあるものです。多くのハンガリー人は日本と日本人に対して友好的で、彼らが日本という国を本当に愛してくれていることに驚かされるとともに感謝でいっぱいです。私の友人の中にも日本文化に敬意を払い、より深く日本について学びたいと努力している方がたくさんいます。彼らのそのような熱意に触れる度に、私ももっとハンガリーの文化について学ばなければならないと思わされます。同時



## 留学生自己紹介

に彼らは日本と日本人の「ここがおかしい」、「ここが良くない」といった意見も持っていて、日本でずっと生活していたのでは得られない外国人から見た日本という貴重な意見も聞くことができます。日本人では普通だと思われることがハンガリーではそうではなかったり、ハンガリーで普通のこと日本人からすると新鮮であったり。日々日常がカルチャーショックの連続です。そういった経験を通して、日本人留學生は精神的に成長できるとともに、日本人であるという固定観念にとらわれない物の見方を身につけることができると思います。

近年の日本人留學生の減少傾向は、日本と日本人の考え方がますます内向きになっているグローバル化に逆行したものです。諸外国が年々多くの留學生を海外に送り出している一方で、日本人の海外の大学への挑戦意欲はどんどん失われている。日本人留學生の減少は、政治や経済などの分野と同じように、日本が海外から取り残されつつあるという現状の縮図なのではないでしょうか。我々日本人はもっとチャレンジして海外で何かを掴み取る努力をするべきです。より多くの学生が海外留學する意欲を持つことを期待するとともに、これからハンガリーに来る学生達を心から応援したいと思います。日本人も異なる環境でもっと勉強したい、もっと何かを得たい、もっと成長したい。人生において果敢に挑戦していく姿勢こそかつて日本人が持っていたサムライスピリットに他なりません。

「行く河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし。世の中にある、人と栖と、またかくのごとし」。長い人生の中で偶然ハンガリーという国に巡り合うという運命。時間も人も絶えず流れていて、とどまるということはない。ただ楽しめばよしい、美味しく酒を飲めばよしい。一献、又一献。麦酒を片手に悠々のドナウの流れを眼下にするとそのようなことを考えるのです。

(もりやま・こうたろう)

### ハンガリーでの経験

リスト音楽院大学院クラリネット専攻  
小森 夕理

ハンガリーに来てもう2年が経とうとしています。フランスやドイツに留學する友人が多い中、どうしてハンガリーを選んだのかと聞かれることがよくありますが、私の場合1枚のCDを聴いたことがきっかけでした。それはハンガリー祝祭管弦楽団のバルトークの作品のものでしたが、生命力溢れるリズム、故郷を感じさせるメランコリックな旋律、心に訴えかけるような演奏に深く感銘し、当時このオーケストラで演奏していたリスト音楽院のクラリネットの先生の下で勉強することを決めました。

リスト音楽院のクラリネットの授業は週2回あります。1回は音階、エチュードなど基礎的なことを主に勉強する時間、そしてもう1時間は専属の伴奏者がついて曲のレッスンを受ける時間です。ハンガリーの作曲家の曲を持って行くときには先生方は特に熱が入り、アクセントが言葉の頭に置かれ



るハンガリー語との関連性、それに伴ったリズムの独特な表現など、私の体にしっかりと染みつくまで教えてください。

1年目は先生の仰ることが、頭では理解できても手段が分からず、また技術的な面

の不足からうまく自分のものとして表現出来ない悔しさを味わいました。また、ハンガリー人の友人たちとのコミュニケーションがうまくいかない事が多々あり、相手もお互い何を言いたいのか分からないので、会話が成り立たず困ったこともありましたが、そのような中でもハンガリー人の優しさに触れる機会がたくさんあります。パスがぎゅうぎゅうに満員でどう見ても乗れるスペースがないのに、「乗れるよ、おいで!」と知らない人が声を掛けてくれたり、友人と自転車でセントドレマまで出かけた帰りに、道で転んで自転車が壊れてしまい、駅まで車で乗せていってくれたり、日常生活の中でハンガリー人の優しさを発見する嬉しい日もありました。また、生活面や考え方、価値観など学んだことがたくさんあります。地方から出てきている学生は必ずと言っていいほど週末は実家に帰り、家族と過ごす時間をとても大切にしているように思います。

2年目になると友達とも打ち解け、いろいろな相談をしたり飲みに行ったりという事が増えました。また、クラリネットの演奏の面でも、少しずつですが自分の理想に近づいているのが実感できるようになっていき、4月にあったハンガリークラリネットコンクールで、1位を頂くことができました。私以外は全員ハンガリー人というコンクールでしたが、アジア人の私が1位を頂けたことに先生方はじめたくさんの友人も私以上に喜んでくださいました。また、これがきっかけとなり憧れであったブダペスト祝祭管弦楽団に秋にエキストラで演奏させて頂けることになり、心から嬉しく思っています。貴重な経験の中で少しでも多くのことを吸収できるようにしっかりと準備をして、次に繋がるように挑みたいと思っております。

せっかく勉強しているのだから、気が済むまでやりなさい。と背中を押してくれている両親、こちらで支えてくださっているたくさんの友人、先生方に心から感謝しています。

(こもり・ゆり)



## 4カ国対抗親善ゴルフ大会4年ぶりの優勝に向かって

柿崎 広好

毎年6月または7月にハンガリー、チェコ、スロバキア、オーストリア4カ国の各日本人選抜メンバーによる親睦ゴルフ大会が開催されます。趣旨は親睦なのですが、年々熾烈な戦いとなっており、我ハンガリー日本人チームは2009年のオーストリア大会の優勝を最後に4年間優勝から遠ざかっています。ちなみに、2010年ハンガリー大会準優勝、2011年スロバキア大会第3位、2012年チェコ大会準優勝です。このままでは強豪ハンガリーチームではなく、古豪ハンガリーチームと言われてしまうのではと危機感を持っています。

昨年の結果ですが、優勝はチェコチーム。準優勝が我ハンガリーチーム。3位スロバキアチーム。4位オーストリアチームでし



2011年対抗戦参加者

た。昨年のルールは各国15名の選抜メンバーでプレーし、上位8人のグロススコアで優勝が決まるというものでした。優勝のチェコチームのスコアは8人の合計が708。一人当たりの平均スコアは88.5です。ゴルフをする方はイメージできると思いますが、このスコアは驚異的です。ほぼ全員80台でプレーするということです。

ゴルフとはスコア100を切ると仲間が増え、90を切ると友達を失い、80を切ると家族を失い、70を切るとすべてを取り戻す(プロになる)と言われています。チェコチームはほぼ全員が90を切る実力者の集団と云うことですから、すでに友達を失った悲しい人達と言えます。準優勝の我ハンガリーチームは8人の合計が726。一人当たりの平均スコアは90.75です。まだ友達を失っていません。

しかし優勝するためには合計で18打。一人当たり3打改善し、友達を失う覚悟が必要です。「今年はその覚悟があり真剣に取り組んでいるか」、「本当に勝つ気があるか」、「なぜ勝てなくなったのか」、「どうすれば勝てるのか」、など今年優勝するために色

々過去を振り返り分析してみました。まず我々ハンガリーチームはこの大会で「本気で勝とうと真剣に取り組んでいるか」から考えてみました。我々ハンガリーチームは4カ国対抗戦の会場には自国開催を除きバスをチャーターして前日入りし、練習ラウンドを行います。まるで甲子園を狙う強豪校のようです。違うのはバスの中。全

員揃うと「乾杯!」の発声と共に宴会が始まってしまいます。帰りのバスも同じで全員揃うと「乾杯!」。優勝すれば祝勝会。優勝を逃せば残念会が始まります。「4カ国対抗戦」の名を借りた「大人の遠足」であったことは否めないと反省しています。今年も例年通り、前日入りしますが、バスを廃止し、5台~6台の自家用車の乗り合いで行く覚悟をしました。

次に大会前の準備です。昨年までは前日入りして練習ラウンドを実施していましたが、他国の選抜メンバーは前日のみならず、もっと前から何度か練習ラウンドをしていることがわかりました。そこで今年も選抜メンバーが日程を決め、事前に練習ラウンドを実施することにしています。私も先日事前にプレーして来ましたが、今回の会場は超難コースであることが判明しました。コース攻略のためには数回ラウンドを重ねることが大切です。前回のラウンド時、コースのビデオ撮影も行いましたので、注意点を大会までにまとめる予定です。

最後に「なぜ勝てなくなったのか」、「どうすれば勝てるか」ですが、勝てなくなった理由は簡単でした。それは他国チームがハンガリーチームに比べレベルが急に上がっていることに他なりません。「どうすれば勝てるか」。それはハンガリーチームが他国に負けない努力をすることであり、全力を尽くすことに他なりません。今年もD社さんにも参加をお願いし、2名の実力者を追加させていただきました。

今年も過去にない最強のチームが出来上がったと思っています。全員が90を切れる可能性があります。もちろん友達を失う覚悟もあります。準備を怠らず全力で4年ぶりの優勝を狙います。大会は7月21日(日)に開催されます。

結果はまた報告させていただきます。皆さんも応援して下さい。

(かきざき・ひろよし マジャー・スズキ)

## ゴルフの魅力 - アンケートの結果から

飯尾 欽哉

今年のゴルフ部は過去最高の盛り上がりを見せています。部員数は目下55名。3月から11月までの月例会のほかに、年2回(春・秋)開催される「マッチプレー選手権」、7月中旬にウィーン郊外で行われる4カ国対抗戦(オーストリー、チェコ、スロバキア、ハンガリー)、初秋に開催予定の年代別対抗戦などゴルフ行事は目白押し。

そこでOBも含めたゴルフ部員の皆さまから「ゴルフの魅力」についてのアンケートをとってみました。日本のTV番組でも各界のゴルフ好きを集めた石川次郎の「ゴルフの教え」や伊集院静の「ゴルフの旅」等でゴルフの魅力が多く語られていますが、ほんとゴルフって素晴らしい。以下アンケートへの回答を取り纏めてみました。

先ず興味深いのは、このアンケートを実施して直ぐに回答が寄せられた部員の殆どがシングル・ハンディキャップであったこと。常日頃からゴルフのことが頭から離れず、仕事よりゴルフの方が優先するタイプに違いありません。逆にハンディの高い部員からの回答はありませんでした。総じて、若いゴルファーはスコアに執着する傾向にあり、中年ゴルファーは技術的な悩みを抱えながら更なる向上心を磨き、やがて60歳を過ぎるとスコアよりもゴルフ自体の持つ魅力やゴルフ場の自然などに目が移る傾向にあるようです。

「大自然との、そして自分との戦いである」(W氏)、「自然散歩とスポーツの見事な融合」(K氏)・・・世界を股にかけて活躍してきたビジネスマン。

「何度「分った!」と思ったことか、未だに悩む難解なスポーツ」(K氏)、「何回やっても思い通りに行かない!」(H氏)・・・シングル

でも未だこの悩み。「ごくたまに出るミラクルショット」(T氏)、「ごくたまに出るナイスショットの快感」(F氏)、「僅かでもスコアが縮まった時の達成感」(O



2012年対抗戦参加者

氏)、「千回に一度のナイスショット」(F氏)・・・ああ、あの時のOne Shotが忘れられない! 「年齢、体力、性別を超えて競えるところ」(K氏)、「年齢、体力に合ったプレーが出来ること」(A氏)、「孫ともガチンコ勝負!」(OB氏)・・・ゴルフに定年はありません。

「海外生活を楽しいものに変えてくれる健康的な遊び」(T氏)、「ストレス発散、体調管理で仕事も活性化」(K氏)、「暇つぶし、ゲームを楽しみながら健康維持が出来ること」(T氏)・・・上手にゴルフを利用しているようです。

「コンペ前日は絶好調、勇んで望めば“やまもと”きんだ」(M氏)・・・前夜飲み過ぎです。今やウララの山本リンダなんて知っている人は少ない。この部員はプレー中、始終駄洒落をかまします。「ごく稀なOne Putt、ルールに酔う、ふらちなスポーツ」・・・語呂合わせ。「日頃の練習と精進、スコアアップ」

(K氏)・・・たまに出てきて入賞の長老。「年甲斐も無くチョコレートのやり取りに一喜一憂できる楽しみ」(O氏)・・・ケネディ大統領が現役時代に負けて手渡したサイン入りの1ドル札は1万ドル以上の価値があると聞いています。

「良くても悪くても全て自分の責任」(OB氏)、「同伴競技者への思いやり」(OB氏)・・・こういう人とプレーを一緒にするとさぞ楽しいでしょうね。因みにゴルフのマナーとエチケットは他のプレーヤーに対する思いやりが基になっているそうです。

「(今週末もゴルフウイダーか)・・・聞えぬふりして、さあ出発!」(ペンネーム猪突猛進氏)・・・ひどい話ですが、この位にならないとシングルハンディは維持できません。可哀想なのは女房どの?「家の中でゴロゴロされているより、外に出て行って貰った方が清々しますよ」って言われている?サラリーマンゴルファーって、週末ごとに出張を作ったり、あちこちの親戚で冠婚葬祭が続いたり、時間の遣り繰りが色々大変です。

どん底景気が続くハンガリー経済、一所懸命働いているのは日本人だけかもよ。毎日のようにストレスが溜まるので、堪りません。肉体疲労は寝てとれますが、精神疲労は寝てもとれません。「プレー後のビール!」(OB氏)・・・ユニクムで身体を温めながら雪の中をプレーしていたこの人を思い出します。最後に長老のOB氏から、「ゴルフは人生そのもの、山あり谷あり」・・・ではゴルフ好きの諸兄諸姉、「明日に向かって、ナイスショット!」

(いいお・きんや 大吉店主)





## みどりの丘補習校



## 夏合宿を終えて 小学5年担任 杉井 夕起

まだ肌寒さの残る6月8、9日の土日、補習校での夏合宿を行った。今年は、ヤーノシュ山にあるBudai Sport Hotelにて、1泊2日の合宿であった。余暇を上手に使うハンガリーには、子どもたちが安全に楽しく過ごせそうな場所は、あちらこちら豊富にあり、施設選びから苦労したが、自然豊かで、また予算的にも私たちに適当な場所を見つけることができた。折しも、ドナウ川の洪水に、日々ひやひやしていたが、幸い我々の行き先は山の方、合宿には予定通り24名の児童生徒、そして講師7名が参加した。「日本語を使って、楽しく過ごす」という目的達成に向け、計画を練っていたが、今回の合宿の成功の鍵は、ひとえに高学年の年下を気遣う「思いやり」の気持ちだったと言える。

合宿中は、縦の繋がりを深める良いチャンスである。各グループ、中学生をリーダーに全学年が混ざるようにグループ分けをした。晴れているうちは、ホテルの庭で「ハンカチ落とし」、「フルーツバスケット」、「オリエンテーリング」をして、汗を流した。オリエンテーリングでは、庭に隠れている講師を探し、五七五の俳句を作る、童謡を歌う、なぞなぞ、縄跳びなどのお題を、皆で協力してクリアし、ゴールまでのタイムを競った。そのうち、雷がごろごろ鳴り始めたので、室内へと場所を移し、「クイズミリオネア」で頭を使う活動もした。活動の合間も、リーダーたちは休む暇なく、思いっきり甘えて飛びついたり、おんぶをせがむ低学年の面倒をみていた。

合宿中の「食事」は、全員で「いただきます」をし、「残さず食べる」というマナーを教える場であったが、大人でも多めの量であった。これは残しても仕方ないか、と思っていると、食べきれない子の食事を食べられる子が手伝ってあげて、なるべく残す量を減らしていた。思いがけない努力に、こちらが驚いた。部屋でも、やはり年長者は室長としての責任を負い、低学年のシャワーを手伝い、他の宿泊客に迷惑にならないよう気遣い、消灯時間を守らせるなど、本当によく気を配っていた。翌日のドッジボールでは、ルールを知らないからやりたくない、と隅に行ってしまった子に、声をかけて参加を促し、また上手にできた子には称賛の声を送っていた。私たちの期待以上に、縦割りの活動がうまく運んだのは、リーダーたちが気持ちよく低学年の面倒をみてくれたからこそであった。低学年の彼らにとっても、講師から指示を受けるより、お兄さ

ん、お姉さんたちがお手本となって示してくれる事の方が、よっぽど心に残るのではないだろうか。そんな彼らの労をねぎらい、大部屋を解放し、もう少し遅くまで過ごしたことは、部屋でぐっすり眠っていた低学年には内緒である。

(すぎい・ゆき)

## 「夏合宿」 小学3年 ラパイ まりな

6月8日9日、ノルマファのブダイ・シュポルト・ホテルで、夏合宿をしました。

わたしが、合宿で一番楽しかったのは、ドッジボールです。わたしは、早くにあてられましたが、見ているのが、すごく面白かったです。

わたしたちのひこうきチームは、四位になりました。

つぎの夏合宿で、またドッジボールがあったらいいなと思います。

「ほしゅう校の合しゆく」  
小学3年 中野 ジェイミー

外であそんだ時にマンホールの上に、たくさんありがたいのを見つけました。少しあいていたから、まさきくんがてつだってくれて、あけてみました。そしたら、いっぱいありとありの赤ち

ゃんとたまごがあって、びっくりしました。しょうくんんとベニくんもきて、みんなでありをかんさつしました。ありたちもびっくりして、にげていきました。

夜は、しょうくんんとケビンくんとベッドでジャンプしたり、まくらをなげてあそびました。先生からおこられたけど、楽しかったです。

## 「しゆくはく学しゅう」 小学4年 桑名 真生

ぼくは、しゆくはく学しゅうに、行きました。

お母さんが、ぼくをつれて行きました。森の中に家があって、とても空気がきれいでした。

みんなで、おにごっこやハンカチ落としをしてあそびました。とても楽しかったです。

ハンガリーや日本の事についてクイズをしました。ぼくは、一つ答える事が出来ました。

ベンジャミン君が、おもしろい話をしてくれました。短い時間だ



ったけれど、とても楽しかったです。今度行く時には、みんなであそべる、おもちゃを持って行こうと思います。

## 「合宿で」 小学5年 越野 花

土曜日合宿に行きました。さいしょみんなでグループをきめました。私のはんちょうさんは、りんとかんでした。グループの名まえは、フーセングループでした。フーセングループは六人いました。いっしょにたくさん遊びました。私が一番たのしかったことは、つなひきでした。クイズミリオネアもすごくおもしろかったです。旗をみせてその旗の名まえをいわないといけなかったです。自由時間リンボーとなわとびをやりました。さい後、私達がかちました。いい天気たくさん遊べたのしかったです。

「初夏の出来事」  
中学1年 隅田 理愛

初めてハンガリーに来て友達と泊まった二日間。まだハンガリーに来て二ヶ月で合宿ということに不安をおぼえながらも合宿の前の週から準備するほど楽しみでもあった。この合宿に来て一番楽しかったことは、グループ対抗のレクリエーションだ。つなひきやドッジボールなどがあり、私のチームは二位だったが、初めて『賞状』と言うものをもらえてうれしく思った。

一日目は体を動かし友達とも夜まで話したのですぐに寝たが、合宿に来て興奮していたせいか翌日は朝三時半に起きてしまい、自分でも驚いた。合宿が終わり家に帰ると今度は眠くなってきて、あの時寝ておけば良かったと後悔した。この合宿に来てよかったことは、ほ習校のこと友達になれたことだ。これからも合宿や遠足に積極的に参加し、もっと交流を深めていきたい。

## 「夏合宿について」 中学3年 畑山 未来

私たちは先週の週末に、学校のみならず一緒に山の上にあるホテルに泊まり、色々なアクティビティーやゲームなどをしてみんな楽しんで。大体20人ほど来ていてにぎやかで結構楽しかった。

1日目の最初には『ハンカチ落とし』というみんなで遊べるゲームで遊び、あんまりゲーム自体に参加できなかったものの、かなり楽しかった。みんなも結構楽しそうで、先生達まで楽しんでいるようにも見えた。小さい子供達は特に楽しそうで、終わった頃にはみ

んなたのしそうな顔をして疲れていた。

そのあとは、フルーツバスケットをして遊んだ。これもかなり楽しく、途中でずっと真ん中にいたいという子が出るぐらいに面白かった。そのあとにやったゲームは、一人一人に数字を決めてその数字を言われたら、場所を入れ替えるというゲームだった。これも面白かったのだがキリの良い数字ばかり選ばれやすく(1、5、10、20、30などが選ばれやすかった)、私の数字12は2回ほどしか選ばれなかったで、かなり暇だった。

一通りゲームをしたあとは、ホテルに備え付けであるレストランで昼食をとった。昼食はスープとお米の上に乗った鶏肉で、スープは普通のスープだったがお米の上に乗った鶏肉がかなり甘く結構な人数が残し、私は完食したがあまり美味しいものとは思えなかった。そのあとの自由時間には友達とフリスビーで遊んだりボー

ル遊びをしたりした、自由時間の後にはオリエンテーリングをした。これは結構楽しく、同じグループのみんなも楽しんだ。全員で夢中になりながらクイズに答えて、正解する度にもらえる石やシールを集めていた。集め終わると、八田先生が、集めた石をプレスレットにしてくれて、みんな、特に女の子たちが嬉しそうにしていた。

そのあとにはドッジボールをやる予定だったが、雨がふりそうなので断念して結局室内で「クイズミリオ

ネア」風のクイズ大会をやった。ライフラインなどもあり結構良かったと思う。

私のチームは3位になってしまったが、クイズ大会自体は盛り上がりみんなも楽しめたと思う。

そのあとはホテルのレストランで夕食を食べた。夕食はパスタの上に乗った鶏肉で、美味しくなかったものの昼食のように変に甘くはなかったおかげでか、昼食よりは残す人数が少なかった。そのあとは部屋で自由時間を過ごし、みんなと遊ぼうと思ったのだが、特に何もできずに寝てしまった。

次の日の朝、起きると部屋の中と荷物が荒らされていて、直すのが面倒だった。さらに、朝5時ごろからはちゃんと眠れなかった。部屋を直した後、朝食をとり、そのあとには最終日ということで、いろいろなスポーツやらゲーム等をやった。例えばドッジボール、そして途中で断念したが大縄跳びもやった。綱引きもやり、みんなとても楽しんだ。夏合宿はとても楽しかった。いろいろな知らない人と同じグループになってみんなで一緒に協力したりして、皆が一つとなれて楽しかった。また来年行けるのなら行こうと思う。





日本人学校

私が、ここ、ハンガリーに来たのは、一昨年の夏だった。ちょうど二年ほど前だ。カレンダーをめくれば長く感じる二年でもあり、記憶をたどると短かった二年でもある。

ここにいる間、私は、日本にいたらできないであろう経験をたくさんした。そのおかげか、成長できたと思うことがある。例えば、言語。こちらに来る前は、英語や日本語以外の多言語は、普段の生活で使わないものと思っていた。でも、こちらでは、英語はもちろん、他にももう一つ話せたらいいと思うようになった。夜に外食でレストランに行けば、ハンガリー語だけでなく英語を使って意思疎通をする。日本語がわからない知り合いの人と会話するときもハンガリー語と英語が主だ。ハンガリー人にとっても英語は多言語なはずなのに、なぜ、こんなに話せるのだろう。最初はそう思っていた。でも、そんな考えも、だんだん変わっていった。ただ、私が話せなさすぎた、それだけなのだろう。私が関わってきた人たちは、誰もが私の手本になった。自分の知っている

充実した二年間

る英単語やハンガリー語で、相手の人と会話できたときは、とてもうれしい。言語は意思疎通のための道具でしかない。でも、私は、今後、自分の英語をもっと磨いたり、ほかの言語を学んだりして、多くの人と意思疎通を図りたい。

自分が成長できたと思うところはまだある。日本から出てから、自分の視野が広がったと思う。私は、以前、日本から出たことがなかった。日本の外を全く知らず、ただ一人で、ああ、日本は素晴らしい、いろいろなものがあるし、食べ物も日本のものが一番おいしい、と。でも、それは違う。ハンガリーにだって、素晴らしいところがある。ハンガリーには、たくさんの自然がある。豊かな文化がある。昔ながらのかわいらしい建物がある。ハンガリーらしい国会議事堂がある。橋もある。食べ物も、すべてしょっぱくて辛いわけじゃなく、おいしいものだってたくさんある。旅行で行った国々にだって、素晴らしいところがある。日本だけが素晴らしいわけじゃない。それぞれの国には、そ

内山 翠

れぞれの素晴らしいところがある。視野も広まり、日本という国が嫌いになったわけじゃない。むしろ、もっと好きになったところもある。ハンガリーにおいて、日本語の勉強は人気なのだそう。バスの中で、私たちが日本人だとわかると、うれしそうに話しかけてくる人もいる。この前も、隣の学校の子が、何か手伝おうか？と声をかけてくれた。そんなことに、そんな人たちに会うたびに、私は、なんとなくうれしくなる。日本は、全員のみに、ではないとしても、好かれている国なのだろう。相変わらず、白米を食べたくなるし、和食を食べればほっとするし、日本独自の文化も好きだ。日本はやっぱりいい。以前、大使館に校外学習で伺った時、話をしてくれたある職員の方が、外国にいと、日本がより好きになる、と言っていた。今では、それがよくわかる。

私は、ここで、多くのことを自分の力にした。たくさん成長できた。これから帰っても、ここで手に入れたたくさんの思い出やことを大切に、これからも、もっともっと成長し続けたい。

生きた勉強

ブダペスト日本人学校中学部では、現地校との交流学习を行なっています。ヴァーロッシュマイヨール高校(以下VM校)のユーリア先生は日本語を熱心に指導され、毎年彼女が受け持つクラスと中学部が文化交流を行なっています。昨年12月には「年末年始の挨拶」をテーマに、日本人学校生徒は年賀状の書き方を、VM校生徒はクリスマスカードの書き方を互いに教え合う交流会を持ちました。

当日、VM校のみなさんは私たちを迎えるために、クリスマスに食べられる芥子のケーキやクッキーも準備してくれました。ラッピングは庭に生えている葉を添えてリボンで一つ一つ丁寧にくるんでありました。ハンガリーの家庭では、家族と一緒にケーキを焼いたり料理をしたりして過ごすのが一般的だそうです。手作りを重んじるハンガリーの温かな生活から、時間がない、時間がないと毎年パソコンに頼り切り年末年始の挨拶をちょっと済ませている私の生活がなんと薄っぺ



生徒たちはVM校のペアと顔を合わせると、緊張もほぐれよう自分たちのペースでやり取りを始めました。分からない単語があれば英語も駆使して意思疎通を図るやる気のあるべ

中野 絵理香

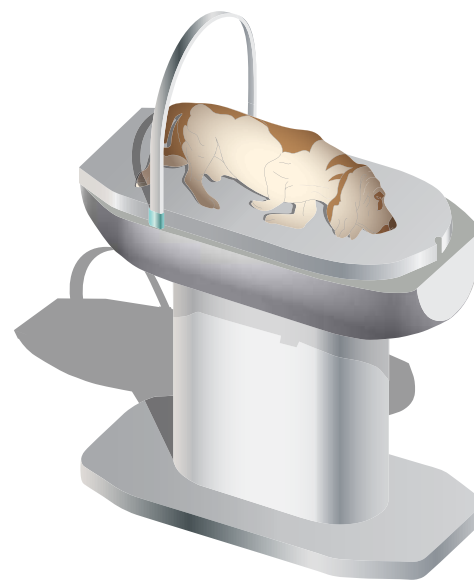
アや、聞き慣れない名前に果たしてそれが名前なのかどうか分からず、互いに戸惑っているペアもありました。しかし準備していなかったことに出くわしてもなんとかしようとする姿勢がどの生徒からも感じられました。

今回の柱は、カードに書く挨拶文の書き方、住所の書き方を伝え合い、互いの文化理解を深めるということでした。しかしそれだけでなく、交流学习はどんな場面に出くわしても臨機応変に「伝える」、「理解する」方法を考え表現する力を育むと考えます。慣れない言語を用いて四苦八苦し、げっそりと疲労感を覚える生徒ももちろんいます。しかしそれは懸命に「伝えよう」と誠心誠意で相手と接している証だと思えます。そんな懸命な生徒達を見て、日本ではまたとない「生きた勉強」を今後も継続していきたいと考えます。

(なかの・えりか 教諭)

# THERMO-PET

## Oncothermia Treatment for Animals



Developed by Oncotherm Ltd. and Tateyama Machine Ltd.



CI、広告、ロゴ、ホームページ等  
名刺1枚からご希望の言語にて  
デザイン致します。  
各種パッケージ、インテリアのデザイン、  
内装工事、翻訳から印刷まで  
幅広く受け承っております。  
お気軽にお問い合わせ下さい。

SAKURA DESIGN: info@innerdesign.hu  
Inner Design Group · 1021 Budapest, Bognár utca 7.  
Tel/Fax: 1-200 3213 · Mobile: 06 20 480 4431

www.innerdesign.hu

## Propart Hungary Bt.

各種コンサート企画・製作・国際交流イベントを中心とした業務の運営。ハンガリーを拠点にグローバルな企画・マネジメント展開を行っています。お気軽に、御相談下さい。

- ・音楽企画/マネージメント
- ・若手音楽家の育成サポート
- ・国際交流事業企画運営
- ・留学/音楽研修サポート
- ・短/長期賃貸物件仲介
- ・各種通訳
- ・翻訳サポート
- ・買い/レンタルピアノ仲介
- ・輸入/輸出楽器仲介

ハンガリー国内出張演奏、各楽器講師紹介なども随時承っています。

Propart Hungary Bt.  
Address: 1089 Budapest, Kőrös utca 25. II/6  
Tel&Fax: +36-1-786-7846  
Mobil: +36-70-3815548  
e-mail: propart@chello.hu  
web: http://propart.client.jp/







## コルナイが綴る 20 世紀中欧の歴史証言

池田信夫「21世紀最初の10年ベスト経済書」第2位にランク  
「週刊ダイヤモンド」2006年ベスト経済書第9位にランクイン

# コルナイ・ヤーノシュ自伝

—思索する力を得てコルナイ・ヤーノシュ【著】 盛田常夫【訳】

◆好評発売中！ ◆定価 4935 円 (税込) ◆A 5 判 / ISBN 4-535-55473-0 日本評論社



## 体制転換 の経済学

黄色の教科書シリーズで知られる専門学部の定番テキスト。体制転換の理論と転換直後の現状を分析。各大学で教科書として使用。

盛田常夫著

### 第一部 社会主義経済の失敗

社会主義崩壊をもたらした社会的退化への論理を構築。交換経済と再分配経済の比較分析に新たな視点を提供。

### 第二部 ポスト社会主義経済

体制転換の過渡期の問題をすべて取り上げ、解決の道筋を示す。地域による体制転換の違いを解明。

■ 新世社 新経済学ライブラリー20 定価2781円(税込)



## なぜハンガリーは独創的な科学者を輩出したのか

20 世紀を創ったハンガリー人 マルクス・ジョルジュ【著】 盛田常夫【編訳】

■ 定価 3045 円 (税込) A 5 判

■ ISBN 4-535-78331-4

# 異星人伝説

「週刊文春」(米原万里)、「週刊ダイヤモンド」(北村伸行—橋大学教授)で書評。  
ハンガリーは 20 世紀の科学の発展に貢献した多くの頭脳を輩出した。大きな足跡を残した科学者たちの評伝。

## 体制転換20年の歴史的・理論的総括の書

# ポスト社会主義の政治経済学

## 体制転換20年のハンガリー：旧体制の変化と継続

新しい概念を駆使して、体制転換以後の中欧社会の状況を分析。

日本経済新聞(2010年3月21日)ほか、多数の書評。

旧来の定説を覆し、新たな知見を広める革新の書。

盛田 常夫著 日本評論社 定価3800円

